

アジア共同学位開発プロジェクト 調査報告書

提出日：平成23年6月6日

報告者名：清水禎文

○訪問先
オーストリア・ウィーン大学
○訪問期間
平成23年5月22日（日）～5月24日（火）
○訪問者
清水禎文 教育学研究科助教授
○訪問の目的・経緯等
ACA 2011 年年次大会参加
○主な報告者
ウィーン大学学長 Georg Winkler スイス連邦工科大学ローザンヌ校 Patrick Aebischer ウィーン大学副学長 Artuhur Mettinger
○成果
<p>EUにおいては、世界大学ランキングを強く意識しながらも、現段階では研究よりも教育を重視してきた大陸の大学の伝統を活かしつつ、質の高い共同教育プログラムをEUの枠組みの中で発展させようとしている。このため、研究者の流動性、研究成果の透明化、さまざまなレベルにおける学生の国際的移動の促進、英語化（英語はもはや外国語ではなく、テクニカル言語）など、さまざまなレベルにおいて国際化を推進してきた。その際、大学の持つ伝統と文化の育成、環境整備も怠っていない（ETHLの事例）。</p> <p>こうした国際化の障壁となっているのは、国家の壁、教育水準の相違、大学の独自性の喪失の危惧（同質化の危機）などである。また一方で、第三世界から見たとき、欧州の留学生（獲得）政策は、「新植民地主義」に他ならず、第三世界からの頭脳流出も危惧されている。</p> <p>最後に、ウィーン大学の事例から、共同教育プログラムを実施するにあたり、多様なレベルでの国際交流実績が不可欠である。我々のプログラムにおいては、まず国際交流実績を積み重ねることが必要である。</p>